The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	胸骨々髄巨核球の組織統計学的研究
Author(s)	田中, 学
Citation	大阪大学, 1978, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/31907
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【27】

氏名・(本籍)	田中　学（たなか　まなぶ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	第　4155　号
学位授与の日付	昭和53年2月22日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**胸骨々髄巨核球の組織統計学的研究**
論文審査委員	(主査) 教授 岡野　錦弥 (副査) 教授 石上　重行　教授 北村　旦

論文内容の要旨

〔目　的〕

再生不良性貧血（以下再不貧と略）など骨髄巨核球減少症に於てその診断基準となるべき骨髄巨核球（以下Mkと略）の組織切片中，単位面積当りの絶対数を正常剖検胸骨56例について計数し，これに組織統計学的検討を加えた。

〔方法並に成績〕

1）ほぼ正常と考えられる急死した健康者の法医剖検例より得た胸骨56検体につきその正中部で数mm巾に切割した全長を5部位に区分した。脱灰后組織標本を作製，パラフィン切片としてH—E染色を行った。一部PAS染色も実施した。

2）5区分の各切片標本を約5mm平方の区画に分け，各区画について方眼マイクロメーターを用いて100倍拡大で単位面積（1mm²）当りのMk数を計数した。

3）サンプル数は，23～114，計数値は，0～56の範囲にわたる。全サンプル数は2713個である。総平均は17.3であった。

4）Mk数の度数分布多角形・相対度数グラフを作製するとほぼ正規分布曲線と見なし得たので分散分析により年令，個体，部位の各要因効果を検定した。

5）再不貧Mk計測値例17例と正常56例の計測例において再不貧中の高値の例及び正常の低値の例が他群に属するものか，いずれでもない領域に属するものか，判定するため，Poisson分布，正規分布などの手法を用いて演算した。

〔総　括〕

正常例の胸骨髄巨核球数の観測値に対し，年令・個体・部位の各要因の効果について統計学的検討を行った処，年令・部位については殆ど効果がなく，個体効果が大であるという結論を得た。更に再不貧例と正常例の鑑別の為，骨髄巨核球計測値のサンプル数，各例毎の観測値の総和によりそのいずれであるか又は両群のいずれとも判断できない領域の例であるかが，判定できるグラフを考案した。これにより各症例の検定も併せて行った。

論文の審査結果の要旨

骨髄巨核球数（以下Mk）の多寡はその機能的消長に関し重要な条件であるが，その客観的な根拠からの計測値の検討は未だ充分になされていない。著者は生前概ね健康と思える急死症例56体の胸骨を5分割し，その各々につき切片を作製，1㎜平方内のMk数を計測，まず正常人の胸骨の年令別，部位別，個体別の要因を検討して，ついで再生不良性貧血の剖検例の胸骨Mk数と比較した。

その結果，正常例では上記3要因中個体別の因子が最も重要であることを知り，更に再不貧症例と正常症例のサンプル数と個体の観測値総計数によって，この二者を有意に判別し得る模式図を作製し得た。之等は剖検例のMkの検討に寄与するものと考える。